

第6章 課 題

第1次計画の評価やアンケート調査結果を踏まえ、次のとおり課題を整理しました。

6-1 利用者の確保と地域公共交通の維持に向けた利用促進

- 本市の地域公共交通の主軸である「のれんす号」の利用者は令和5年度をピークに減少傾向にあります。これは、自動車運転免許保有率の増加によるもののほかに、ヘビーユーザーの頻回利用回数の増加に対し、年に数回利用する方や新規の利用者数が伸び悩んでいることが要因となっていると考えます。
- 本計画策定のため令和8年6月に実施した市民アンケートでは、約86%が自動車運転免許を保有し、約80%が自ら運転する自動車により移動していることから、現在の移動に不便を感じていない人が約77%を占めています。
- その一方で、10年後の外出については、60代の55%、70代以上の69%が不安を感じています。将来、自身や家族による自動車の運転が困難となることで、地域公共交通を必要とする高齢者の増加が見込まれます。

6-2 必要な情報を必要な人に確実に届ける、分かりやすく効果的な情報発信

- 定期的な広報紙への掲載やホームページ、パンフレットなどにより地域公共交通の周知を行っていますが、本計画策定のために実施したアンケートでは「利用方法やシステムがよくわからない」との回答が一定数ありました。
- 胎内版公共ライドシェアの認知度は23%、利用率は3%にとどまっています。
- こうした状況を踏まえ、利用者が必要なときに必要な情報を確実に得られ、地域公共交通の利用につながる効果的な情報発信が求められます。

6-3 二次交通の充実による交流人口の拡大と地域活性化

- 「のれんす号」は、利用者の乗車状況等により到着時刻が読みづらく、鉄道との乗継ぎなど予定を立てにくいことが課題となっています。今後は、到着時刻の予測や位置などの運行情報を提供することにより、駅を起点とした観光やビジネス利用の移動を支える二次交通として、「のれんす号」の利用促進を目指します。
- 現在、観光二次交通として、中条駅、平木田駅と観光地などを周遊する観光バス「くるっと胎内」を運行していますが、利用の広がりには課題があります。交流人口の拡大と地域活性化に向け、利用の拡大につながる方策を検討していく必要があります。
- 夜間帯の移動手段である胎内版公共ライドシェアの認知が十分に進んでおらず、利用が限定的です。地域内での交流や外出機会を創出し、地域活性化を図っていく必要があります。

6－4 利用者の高齢化に伴う福祉サービスとの連携強化

- 高齢化の進行に伴い、運転が困難になる前から、将来の移動手段として地域公共交通に関心を持ち、利用につながる環境を整備する必要があります。
- 介護予防や健康寿命延伸の観点から、自動車運転免許証を返納した後も安心して外出できる地域公共交通を目指します。

6－5 身近で利用しやすい交通サービス導入の検討

- 利便性が高い一方で、事前登録・予約の必要性や時間の読みづらさといった「のれんす号」の課題を補完する、だれもが気軽に利用しやすい交通サービスの導入を検討していきます。